



『知って見える景色』

副校長 池上 大輔

年末に見に行きたかった映画をようやく見に行くことができました。映画『宝島』という作品です。映画の時代背景は、実際の沖縄の歴史に基づいた内容でした。米軍統治下の沖縄。物資を奪って困窮する住民に分け与える「戦果アギヤー」と呼ばれる若者たちがいました。沖縄戦後の混沌とした時代背景に、若者たちの成長と葛藤を描いたストーリーです。上映時間は191分と3時間を超えます。ここまで長い映画を見るのは少々心配でしたが、あっという間に過ぎた3時間でした。

映画について学校司書(図書館運営)の水野さんへ話したところ「図書館を整理していたら古い沖縄の資料が出てきたけど見ますか?」と声をかけてもらいました。その本は図書館窓際角の下段に置いてあります。写真集「沖縄」「沖縄戦」「沖縄戦後史」の3部作で大きな資料です。読んで驚いたことがあります。これは私の予測ですが、きっと監督はこの資料を見たのではないかな?とってしまうほどでした。劇中に出てくる、戦闘機の小学校への墜落。「戦果アギヤー」という若者がいたこと。映画で出てくる内容について事細かく出ていました。また資料の新聞記事にある、事件現場の写真に写る車は映画で同車種が出ており、歴史の現場を再現していたことに驚きました。



私が沖縄に興味を持ったのは学生時代のことでした。沖縄の青い海、白い砂浜、東京の環境とは全く違う自然の豊かさに憧れ、アルバイトをしてお金を貯めては友人と旅行に行きました。海へもぐり観光をして沖縄の大自然の恵みを楽しんでいました。

ダイビングで島を訪れた時、現地の方たちと一晩話し込むときがありました。それは西表島や宮古島、沖縄本島の歴史の話でした。浮かれた学生の私たちにとっては深く重たい話でした。きっと無知で楽しみだけに来ている学生を見て、大切なことを伝えなくてはとってくれたのだと思います。

目の前で夕日が暮れる海を見ながら話を聞き始めました。感染症で島が2度全滅したこと。墓も作れずこの海へ流してあげたこと。もし潜って見つけてもそっとしてあげると。本島のアメリカ上陸の話では、これだけ綺麗な海なのに近寄れない人がいたこと。なぜなら綺麗で大きく真っ青な海が真っ赤に染まったからだ。広大な海がすべて軍艦で埋まり、雨のような砲撃を受けたこと。教科書で見聞きしていたものを、どこか遠く過去の事と捉えていた私でしたが現地の方たちにとっては遠い昔の話ではなく、今に感じる思いの話でした。それを聞いて、さっきレンタカーですれ違ったサトウキビ畑のお爺さんも、さっき売店で話したお婆さんも、そんな時代を生き抜いた、その思いを今も持っていたんだと気づきました。自分たちはどう映っていたんだろう。生き延びることに必死だった時代を目にした何年後かに、目の前を楽しそうに若者が通っていく姿はどう映ったのだろう。島の方の思いを初めて考えた忘れられない夜でした。

教員になってから、話の中の場所をいくつか訪れました。ひめゆり平和祈念資料館を何度か訪れたある年、新しい館長さんへ代わる式典の日でした。初の戦後生まれの館長の着任ということで、多くの方が訪れていました。語り部の方も高齢になり、戦争の悲惨さを次世代へつなぐ変化の時が来ていました。沖縄の戦争を過去の出来事にしない島の方の思いを感じられた日でした。お土産屋のおじさんと立ち話をしていると、目の前の道路を見ながらつぶやいていました。「近頃じゃ、修学旅行のバスがひめゆりを通過していく。何のために沖縄にきているのかね」その表情は、怒りとも呆れとも、何とも言えない表情でした。

太平洋戦争末期に上陸され攻撃を受け、沖縄の大勢の方が亡くなりました。米国の統治下となり、ずっと占領されアメリカのルールですべてが進んだ過去があります。

沖縄方言で「うちなんちゅ」は沖縄人、「やまとんちゅ」は大和人、つまり日本内地の人を指します。映画『宝島』はうちなんちゅの視点で沖縄の戦後、日本返還(1972年)までにどんな目にあってきたかを描き、やまとんちゅに伝えたい物語でした。

私たちが知る沖縄には、観光地沖縄として、ソーキソバやゴーヤチャンプルーの食文化、温暖な気候に「ナンクルナイサ〜」と陽気な県民性と、どこか思い込んでいるものがあります。しかしそれが「沖縄」の全てではありません。私は初めてその思いを知ったあの時、目の前の景色が聞く前と同じには見えませんでした。何年たってもこの沖縄で起きたことは、同じ日本人として知っていかなくてはならない、忘れてはいけないことだと感じています。

■スキー移動教室（1/29～1/31）■

「楽学律道～雪の上の挑戦者～」

企画運営担当職員 真畑 佳奈

1学年初めての宿泊行事であるスキー教室。10月に実施された校外学習の反省を踏まえ、2年後の修学旅行まで、自分たちがどのように成長していきたいかを見据えて、実行委員が意見を出し合いスローガンを設定しました。準備の段階から当日まで、実行委員全員が学年のことを考え行動し、きまりなども自分たちで提案し、実行しようとする姿がみられました。スキー教室では、実行委員だけでなく、生徒一人一人が主体的にスキー教室に参加しようという意欲がみられ、「そろそろ移動しよう!」「部屋会議やるよ!」などお互いに声をかけ合う姿がみられました。3日間一緒に過ごすなかで、互いに助け合い、感謝し合って行動し、絆を深め合えたと感じました。また、スキー実習では、多くの生徒が初めてのスキーでした。初日は、苦戦している生徒も多くいましたが、3日目には、「楽しかった」「もっと滑りたい」「また来たい」と楽しそうに話してくれました。

このスキー教室でたくさんのことを学びました。今回だけで終わらせることがないように、さらに飛躍できるように期待しています。そして、こうして無事に終わることができたのは、保護者の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

スキー教室実行委員長 1年B組 山内 理央

3日間のスキー教室お疲れ様でした。スキー教室を終えて、スキーの技術だけでなく、挨拶の大切さなど、多くのことを学ぶことができました。バスやレクリエーション、食事などを通して、クラスや学年の仲がさらに深まったと思います。私は実習班で、今まで話したことがなかった人とも話すことができました。「楽学律道～雪の上の挑戦者～」を意識して、全員が規律を守って、たくさんすることに挑戦できたと思います。もっすぐ後輩ができ、新しいクラスになります。残りの1か月半、スキー教室やこれまでの経験を生かして、2年生になる準備をしていきたいです。



■生徒の活躍■

◇吹奏楽部◇

第59回東京都中学校アンサンブルコンテスト 金賞（22校/415校）

第49回東京都アンサンブルコンテスト（全日本アンサンブルコンテスト予選） 金賞（9校）

◇陸上競技部◇

第62回東京都中学校ロードレース大会（多摩）

女子2・3年 1km競走 第4位 倉科幸佳 男子2・3年 3km競走 第8位 澤木基弘

第46回こだいら市民駅伝 第4位 男子チーム（上三垣・篠村・本間・澤木・瀬川・木野）

◇新体操（個人）◇

第45回東京都中学校学年別種目別新人大会 第3位 岡山 菜

◇第74回東京都公立学校美術展覧会◇

（書写の部）

1D 永井優々桜 2E 佐藤 春

（美術の部）

| | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1B 高井新太 | 1C 山田佳穂 | 1E 加茂真詞 | 1E 高木 凜 |
| 1E 福島衣織 | 1F 山崎美結 | 2A 加藤杏梨 | 2A 木野佑都 |
| 2A 石川心晴 | 2B 柄澤ひなた | | |
| 3A 石原 周 | 3B 山下咲笑 | 3C 陣内正人 | |

（家庭科の部）

| | | |
|---------|----------|----------|
| 3A 藤野琴乃 | 3B 黒澤奏和 | 3C 武富莉子 |
| 3C 芦澤妙音 | 3D 野口咲弥子 | 3E 菅野すみれ |



■3月の主な行事■

| | |
|-------------------------|------------------|
| 2日 都立一次発表 保護者会（1・2） | 16日 卒業式予行 |
| 6日 校外学習（2） 国際交流プログラム（1） | 17日 給食終（3） |
| 9日 学年朝礼 安全指導 卒業遠足（3） | 19日 第60回卒業式 |
| 10日 午前授業 都立高校二次入試 | 23日 球技大会（1・2） |
| 11日 避難訓練 専門委員会 | 24日 大掃除 給食終（1・2） |
| 12日 中央委員会 球技大会（3） | 25日 修了式 離任式 |
| 13日 都立高校二次合格発表 | 26日 春季休業日始 |